

2019年度 明治大学教育職員免許状更新講習 担当割

講習日	領域	講習名	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限
			9:30 ~ 10:50	11:00 ~ 12:20	13:20 ~ 14:40	14:50 ~ 16:10
7月29日(月)	必修	教育の最新事情	山下 達也 明治大学文学部准教授	高野 和子 明治大学文学部教授	松田 美登子 東京富士大学経営学部教授	
			教職についての省察	法令改正及び国の審議会の状況等	学校とカウンセリング(1) 特別支援教育におけるカウンセリングの実態	学校とカウンセリング(2) 大学における神経発達障害学生の支援
<p>これまでの教職生活についての省察を行うため、「教師のライフコース」に着目します。「教師のライフコース」は、個人が教師として歩んできた軌跡そのものであり、「教育専門家としての教師の発達」の過程です。「認知的地図」が描かれることにより、いつ、どこで、どのような成長や子ども観、教育観の変化があったのか、自分がどのような教師なのかといったことについての自覚が促されます。受講者全員にライフコースを作成してもらい、グループでの意見交換・議論を行う予定です。</p> <p>「教職についての省察」では、教師のライフコースに着目し、教員としての子ども観、教育観等についての省察を行います。「法令改正及び国の審議会の状況等」では、国の教育政策や世界の教育の動向について学びます。「学校とカウンセリング」では、神経発達障害を持つ児童・生徒に対する特別支援教育の意義や発展の可能性・課題について考え、子どもの発達に関する最新の知見、子どもの生活の変化を踏まえた課題について学びます。</p>			<p>「教育改革における教師の位置」の二重性に着目しながら、新教育基本法(2006年法)成立以降の法令改正を概観し、それが職場や地域にどのように現れてきたかを振り返ります。その際、受講者ご自身の教員人生、社会の変化や政策動向の中に捉えてとらえ、これから先のご自身の学校や教育活動について考え、交流するようになっています。</p> <p>(1) 学校現場におけるカウンセリングの利用として、神経発達障害を持つ児童・生徒に対する特別支援教育を取り上げます。神経発達障害の基礎知識の講義では、最近の研究について報告します。事例を中心に、児童・生徒や保護者に対するカウンセリングや教員との連携の様子及びチームとなって支援する様子を紹介しながら、学校とカウンセリングについての理解を深めます。</p> <p>(2) 大学、短期大学、高等専門学校(以下、大学等)では、小中学校や高等学校における特別支援教育の充実と大学等への進学率の上昇から、神経発達障害を持つ学生が増加しています。大学においても「合理的配慮の提供」が法的義務もしくは努力目標となりました。神経発達障害を持つ学生の支援について、学生生活支援とキャリア支援の様子を中心に講義します。</p> <p>(1)と(2)により、中長期的な展望から、神経発達障害を持つ児童・生徒に対する特別支援教育の意義や発展の可能性および課題について、皆さんといっしょに考えたいと思います。</p>			
7月30日(火)	選択必修	教育の最新事情	関根 宏朗 明治大学文学部准教授	齋藤 幸 明治大学文学部教授	藤井 剛 明治大学文学部特任教授	
			アクティブ・ラーニングを活用した道徳教育	今求められる学力とアクティブラーニング	アクティブ・ラーニングを用いた主権者教育	
<p>今般その重要度がますます高まっている道徳教育の指導において、同じく文部科学省が強調しているアクティブラーニングの視点を取り入れた授業づくりの可能性を考えてみたいと思います。上記の教育改革の流れを根拠的に確認するとともに、実践的な事例の紹介・検討を通して、生徒たちの能動的な学習を刺激づける道徳科指導法のイメージについて具体的に展望します。</p> <p>参考図書 『新しい学力』岩波新書 『考え方の教室』岩波新書</p> <p>「育成を目指す資質及び能力を育むための主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」として、現在、全国の学校現場で様々な実践が試みられている「アクティブ・ラーニング」を取り上げる。「アクティブ・ラーニングを活用した道徳教育」「今求められる学力とアクティブラーニング」「アクティブラーニングを用いた主権者教育」の3つのテーマで学びます。</p>			<p>これからの時代に求められる学力とは何かを、伝統的学力と新しい学力の二つを軸として考える。また、現在注目されているアクティブラーニングの本質を実践的に理解することを目標とする。授業スタイルとともに、グループワークを取り入れ、アクティブラーニングを実践する形を促す。</p> <p>2016年、公選選挙法が改正され、「18歳選挙権」が実現した。総務省と文科省は「私たちが拓く日本の未来」を作成し、全国の高校生に配布して、「主権者教育」が始まった。本講習では、①「主権者教育」の理論的背景や現状を概観する②「中立」などに配慮し、さらにアクティブラーニングの手法を用いた「主権者教育教材」の模擬授業を体験するなどを通して、今後の主権者教育を考察していきたい。</p>			
7月31日(水)	選択	教師への支援と子ども理解	諸富 祥彦 明治大学文学部教授	高瀬 由嗣 明治大学文学部教授		
			学校場面におけるカウンセリング 学校経営と保護者対応にカウンセリングをいかす	生徒の心理の理解と支援—心理テストの視点から—		
<p>本講座では、学校現場におけるカウンセリングの役割について、2つの視点から学びます。第一に、カウンセリングを学校経営にどのようにいかすというポイントから学びます。第二に、保護者対応に際して、どのようにすればよいかを学びます。ともに具体的な事例を取り上げつつ実践に即した内容を扱い、学校とカウンセリングについて理解を深めることを目的としています。エンカウンターなどの実習も含めて体験的な学習とする予定です。</p> <p>「学校現場におけるカウンセリング」では、カウンセリングの役割について、学校経営と保護者対応の2つの視点から学びます。具体的な事例を取り上げつつ実践に即した内容を扱い、理解を深めます。「生徒の心理の理解と支援」では、生徒の心理をよりよく理解し支援するための方法を、心理テストの視点から学びます。教師の実践的な能力を高めることを目的としています。</p>			<p>生徒の心理をよりよく理解し支援するための方法を、心理テストの視点から学ぶ。前半は、心理テストの基本的な考え方や意義と目的、そして方法について学習する。後半では、教育現場で利用可能な心理テスト(主にWSC-1)を取り上げて、子どもを適切に理解し、支援する方法を学ぶ。授業では、特殊支援教育に関わる事例をまじえながら、心理テストを初めて学ぶ人にもできるだけわかりやすく解説する予定である。</p>			
8月1日(木)	選択	子どもの育ちと学びの支援	武田 洋子 東京家政大学 家政学部児童学准教授	伊藤 直樹 明治大学文学部教授 山下 聖隆(ゲストスピーカー) 川崎こども心理ケアセンターかなで	林 幸克 明治大学文学部准教授	
			思春期以降の育ちを見据えた子育て支援	学校における子ども虐待への理解と対応	参加型ボランティア学習	
<p>子どもの長きに渡る育ちを見ていくと、乳幼児期を子どもがどのように過ごし、親がどのような状態で子育てを行い、親子でどのような関係性を形成したのかは、思春期以降の子どもに大きく影響することがわかる。従って、子育て支援には思春期以降の育ちを見据えた支援という視点が必要となる。本講習では子育て支援について事例を交えながら概観し、これを踏まえて学校現場での親や子への対応について考える機会を提供したい。</p> <p>全国の児童相談所における虐待相談対応件数は年々増加しており、学校においても虐待対応は喫緊の課題となっています。虐待を受けた子どもとその家族への理解と対応について、児童心理治療施設(旧 情緒障害児短期治療施設)で関わった子どもたちとの具体的な経験を交えながら、学校現場で必要とされる視点や対応の観点についてお話したいと思います。</p>			<p>中学校・高等学校におけるボランティア学習の在り方について具体的・実践的に学び、現状と課題を明らかにしつつ、現場での取り組みに活かすことをねらいとする。参加型学習の手法を用いたボランティア学習の事前指導・学習を根拠的に体験し、教師の視点で振り返り、意義と課題を明確にする。それを踏まえて、事後指導・学習について、具体的・実践的に検討・考察する。</p>			
<p>以下のテーマを取り上げながら、子どもの育ちと学びの過程、及び学校や教師の役割について、より多面的に捉える視点を養います。</p> <p>① 思春期以降の育ちを見据えた子育て支援 ② 学校における子ども虐待への理解と対応 ③ 参加型ボランティア学習 ④ 学習意欲を高める授業実践とは このうち、③と④はいずれか選択となります。</p>			<p>伊藤 貴昭 明治大学文学部准教授</p> <p>学習意欲を高める授業実践とは</p> <p>本講習では、特に学習者の学習意欲に関連する研究を軸にして、参加者自らの授業実践を振り返っていきます。実践のあり方によって学習者の意欲がどのように影響を受けるのか、教師はどのようなポイントに(暗黙にせよ)留意しているのかについて、動機づけ理論の側面から検討します。なお、講習では参加者相互の実践経験を交流させながら、自らの実践を振り返る活動を中心に進めていく予定です。</p>			

2019年度 明治大学教育職員免許状更新講習 担当割

講習日	領域	講習名	1 時限		2 時限		3 時限		4 時限				
			9:30 ~ 10:50		11:00 ~ 12:20		13:20 ~ 14:40		14:50 ~ 16:10				
8月2日(金)	選択	授業改革の視点と方法	【英 語】	尾関 直子 明治大学国際日本学部教授		遠藤 雪枝 昭和大学富士吉田教育部専任講師・明治大学文学部兼任講師		「言語教師のポートフォリオ」を活用した省察					
				CEFRとCAN-DOリスト		タスクに基づいた指導法とパフォーマンス評価							
				文科省は、2011年に「中・高等学校では、各学校が、学習指導要領に基づき、生徒に求められる英語力を達成するための学習到達目標を「CAN-DOリスト」の形で具体的に設定することにより、学習指導要領の内容を踏まえた指導方法や評価方法の工夫・改善が容易になる」と「英語力向上のための5つの提言」の中で提案しました。2014年の文科省の調査によると、CAN-DOリストを作成している高校は、既に半数以上にのぼっています。また、新学習指導要領では、CAN-DOリストの形で英語を使って何ができるかを明記することになっています。また、新学習指導要領でもCAN-DOリストは有効です。この調査では、CAN-DOリストの元となり、現行の学習指導要領と、理念や指導方法において共通点も多いCEFR(Common European Framework of References for Languages)について学習します。CEFRの理念と学習指導要領の理念には、共通点が多くあります。大きな共通点としては、「生きる力」を育む、つまり、自習した学習者を育てることが理念とされています。次にCAN-DOリストの具体的な作成方法を考えます。CAN-DOリストを授業で活用するには、適切なCAN-DOリストが必要です。現在、CAN-DOリストを既に作成し終わった方も、授業でリストをより活用できるように、もう一度CAN-DOリストを見直しましょう。また、CAN-DOリストに書かれた到達目標を達成するためには、どのような指導をすればよいのかについても考えます。		CAN-DOリストに基づいた授業を行うということは、生徒が言語で何ができるかに焦点を当てた授業をすることになります。これは、新学習指導要領でも重視されている指針です。言語で何ができるかを焦点とした授業は、action-orientedな授業、つまりタスクに基づいた指導方法を取り入れることとなります。タスクに基づいた授業では、学習者が主体となったいわゆるactive learningを目指すこととなります。それでは、タスクとは何であり、どのような特徴があるのでしょうか。タスクの特徴としては、意味に重点が置かれる。ある特定の目標がある。活動をしている間に学習者間・生徒間・先生とのやり取りがある。学習者は、自由に言語を選ぶことができるなどがあります。それでは、タスクはどのように作れば良いのでしょうか。更に、指導と評価は、一体化すべきです。タスクを取り入れた授業を実施した場合、従来の紙と鉛筆を使ったテスト方式の評価では、授業で行なったことを正確に評価することはできません。タスクを取り入れた授業を実施すれば、それにふさわしい評価をしなくてはなりません。そのような評価をオーセンティックな評価といいますが、その中の一つであるルーブリックを使ったパフォーマンス評価について学習します。		J-POSTL「言語教師のポートフォリオ」の活用方法をみていく。J-POSTLとは、EPOSTL「ヨーロッパ言語教育履修生ポートフォリオ」を日本の教育現場でも受容できるように翻訳されたポートフォリオであり、自己の長所や改善点、指導方法等に対する気づきや省察のためのツールである。主な特徴は以下の3点である。1) 英語教師に求められる授業力を明示する。2) 授業力とそれを支える基礎知識・技術の振り返りを促す。3) 自らの授業の自己評価力を高める。					
				益田 裕充 群馬大学教育学部教授・附属中学校長		早川 雅晴 植草学園大学発達教育学部准教授		新学習指導要領で求められる理科の授業デザイン					
				新しい学習指導要領の改訂と理科授業のデザインベース									
				学習指導要領が改訂され、「見方・考え方を働かせる」方法とはどのようなものなのか各教科で検討が必要となりました。そこで、本講義では、理科授業のデザインベースである「問題解決の過程(探究の過程)」を学びます。この講習を終えると、ワンランク上の授業観を身につけることができるような授業デザインの省察となる講習を目指します。まず、理科授業で教師が日々取り組まれている授業を省察します。問い(課題・問題)があっても答えのない授業。この授業は問題解決のストーリーに課題があると云えます。結果と考察はどうか区別すればよいのでしょうか。身近にある授業の問題を授業のストーリーの観点から解決します。目標、理科授業に取り組まれている教師が知っていると考えている、当たり前だと考えている授業の指導過程を省察します。さらに、今日、求められている資質・能力を育成する授業をデザインするにも問題解決のストーリー性を高めるための「各局面の関係づくり」にあることを省察していただきます。どのような関係の成立が重要なのかを再考し、この学びが日々の授業デザインの改善に資する学びとなるようにします。		2017年公示の新学習指導要領から表記方法が大きく変わった「理科の目標」「学習内容」について、その系統性を俯瞰します。次に、目標達成の手法として、理科の授業の特徴である実験・観察を実施する際、思考プロセスの修得を意識させるためのアクティブラーニング等の授業デザインについて生協分野を例にして検討します。							
			【社 会】	金子 幹夫 神奈川県立三浦初声高等学校総務教諭・明治大学文学部兼任講師		山田 朗 明治大学文学部教授 渡辺 賢二(ゲストスピーカー) 明治大学平和教育センター資料館展示専門委員		歴史把握の方法 (映画・映像から学ぶ戦争の歴史)		主体的学習の事例研究 (生徒が主体的に取り組む歴史探究の取り組み)			
				社会科・公民科の授業研究		歴史把握の方法(映画・映像から学ぶ戦争の歴史)		主体的学習の事例研究(生徒が主体的に取り組む歴史探究の取り組み)					
			本講義では、主として「アクティブラーニング」を取り上げ、教室内の生徒をどのように捉えるのか、どのような教材を作成するのかを参加者と共に考えていきます。具体的には、① 社会科系科目におけるアクティブラーニングに関する考察 ② 社会科系科目におけるアクティブラーニングを意識した授業案づくり ③ 研究協議 ④ 創造的な授業づくり ⑤ 省察を行います。		一般に入手できるDVD化された映画や映像教材から戦争の諸側面と現代社会のあり方を考察するのにも有効な事例を紹介し、歴史的な事象や社会的な(記憶)を次世代に継承していく方法を検討する。		生徒が自ら問題意識を持ち、主体的に取り組むとき主権者としての自覚が高まり、歴史や社会のあり方を探究する力がついてくる。実際に戦争遺跡(参事館)を調べた渡辺賢二氏と高校生との取り組みを例に歴史教育のあり方を考える。第2講のゲストスピーカー：渡辺賢二氏						
			【国 語】	伊藤 剣 明治大学法学部准教授		渡辺 哲男 立教大学文学部准教授		いま、教室で文学を読むことの意味 —「空中ブランコ乗りのキキ」をケースとして—					
				古文の授業 —奈良時代の文学作品の可能性—									
			古文の授業で奈良時代がとりあげられる機会は少ない。これはたいへん勿体ない状況である。たとえば、ひらがなのない時代に漢字のみでどう日本語を表現したかを問題にすることは、日常生活で無意識のうちに行っている書く行為のものを再考する契機にもなる。本講習では、ある奈良時代の文学作品をとりあげ、講師自身の読解や知見の一端を示しながら国語教育の可能性を考えてみたい。		大学入学共通テストの導入に向かうなかで、日常の「楽の場」における「論理的」思考がより重視され、教室で文学作品を読む意味が改めて問われている。本講では別役「空中ブランコ乗りのキキ」(三省堂・中1)の教材研究を、ワークショップ形式で進めていながら、この問題を考えてみたい。								
【数 学】	佐藤 英二 明治大学文学部教授		阿原 一志 明治大学総合数理学部教授		数学における思考力・判断力・表現力								
	生徒とともに作る数学の授業を目指して												
この講習では、授業への生徒の参加を促すために、2つのワークショップを行います。一つは、物を用いて数学的な関係を見つける活動です。生徒の探索的な活動をデザインする方法を考えます。もう一つは、授業を物語として構成する方法について考える活動です。スモールステップで問題を取り組みやすくする方法ではなく、ぼつと視界が開ける授業を体験します。なお、工作用紙やハサミなど必要なものはこちらで準備します。		数学において、知識・技能を育てることはもちろん、思考力・判断力・表現力や主体性を育てることが注目されています。本講習では、文部科学省の資料センター試験の後継とされる共通テストの試行調査問題などを題材として、(主に中等教育の)数学における思考力・判断力・表現力の育成について考えていきたいと思います。											
授業観と学問観の捉え直しを目指します。以下の5クラスから1つを選択となります。													